

日本の将来と私

高齢化社会をどう生きるか

新潟青陵高等学校三年 小出 恵子

九月十五日、敬老の日の新聞に、大きな見出しで「六十五歳以上は一、二六六万人、人口の割に迫る」とあった。その記事を読んだとき私は、まだまだ他人事であって興味を感じはしたが、自分自身に直接関係する問題として受けとめることはなかった。

ところが、ある一冊の本を手にしたときに私はそのことを思い出したのである。その本には、一九二〇年から未来二〇一五年までの人口構造のグラフが載っていた。普通の年齢構造はピラミッド型である。日本も第二次世界大戦までは、その典型的なものであった。ところが、一九八五年になるとそれが大きく変貌し、二〇一五年の予想される人口は、完全に釣り鐘型になるといえるのである。すなわち、食生活の改善、医学の進歩と並行し社会構造の変化に伴って出生率が低下、それが釣り鐘型になる原因と考えることができる。つまりこのグラフから分かるこ

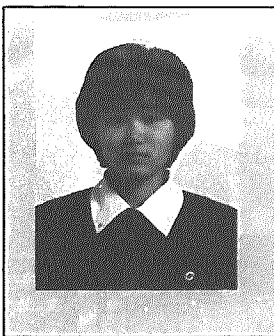
とは、人口の四・五人に一人は老人となる近未来の高齢化社会は確実に訪れるし、私自身もその社会で生きて行くというのをひしひしと他人事ではないことをひしひしと感じたのである。現在老人の置かれている立場、その真実を求めて書かれた新聞の連載記事を読む機会があった。記事のどの部分を読んでも、痛切に感ずるのは、老人が寂しがっているということであった。ある老人の言葉に、

「道を歩いていても元気がすか、とか、こんなにちは」と声をかけてくる人はいない」というのがある。この老人は、長年住み慣れた土地を離れ、娘夫婦に引き取られた。その娘夫婦の住宅は、いわゆる新興住宅地で、都会ゆえの無関心もあり、隣りに住む人さえ知らない。物質的には恵まれた生活の中で、老人はしきりに「親しい人に会いたい」と言う。こうした老人の気持ちを

わがままとだけですませてよいであらうか。また、家庭内の老人との対話の少なさも問題である。老人を引き取ったある女性は夫に「お前には兄妹がいるだろう……」とあてつけられる。こんな環境にいては、老人でなくても肩身が狭く、失踪を繰り返すであらう。それに関連して、とうとう一つの事件が起つてしまった。妻のぼけ症状の悪化のため、自分の仕事も思うに任せず、妻が自分の顔さえ分らなくなったとき、生きがいを見失ったとき、妻を絞め殺してしまつたというものだ。その背景には、「なぜそれほどになるまで自分だけが苦勞し、子供たちには頼らなかつたのか」という大きな問題がある。被告は、

「妻を引き取らせたら、子供らは私以上に苦勞するだろう。息子たちには、私とは他人の女房もいることだし、苦勞するのはかわいそうで……」

本町寺地の小出恵子さんがNHK作文コンクールで最優秀を受賞しました。



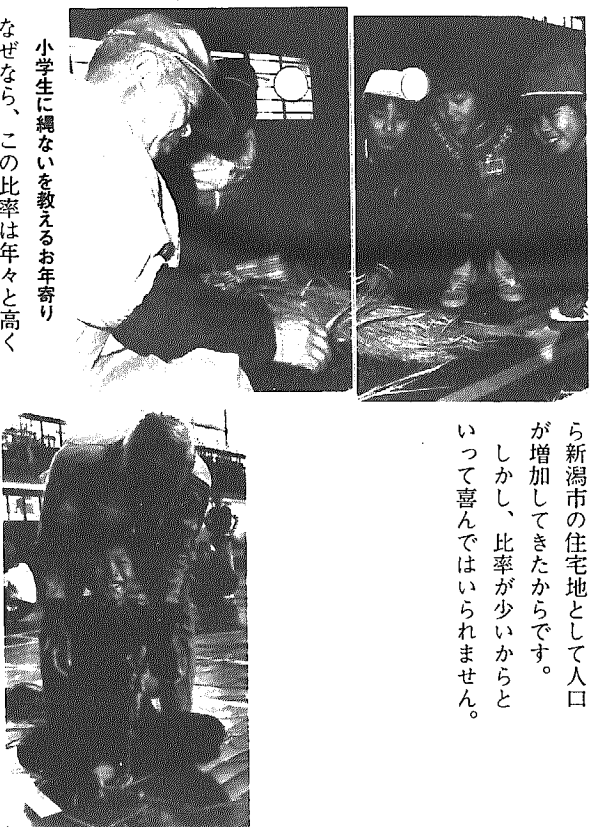
四千五百五十五点の第一位

受験勉強のつもりが……

昭和五十八年度NHK杯全国作文コンクール、高校生の部で、寺

黒埼町の 県でいちばん若い町ではありませんが

黒埼町は県内でもっとも若い町です。五十九年一月一日現在で老年化指数は三六・五で県平均の五五・八を大きく下回っています。(老年化指数は六十五歳以上の人口をこれより大きく下回っています。これは、黒埼町が昭和四十年代から新潟市の住宅地として人口が増加してきたからです。しかし、比率が少いからといって喜んではいられません。



と言っている。老いの境遇にあつても若い世代に頼りたい気持ちをとどまらせる状況。事件の後、近所の人たちの寛刑嘆願書や、子供たちの反省も考慮されたのか、被告は執行猶予となった。しかし、この事件は高齢化社会に進みつつある現代を象徴するような事件であり、いろいろ考えさせられることが多い。

もらうかではなく、自分が家庭の中でどのような役割を分担できるか考え行動することであらう。第二に労働意欲を持つ人が六十万人もいると冒頭の新聞記事にあった。社会が高齢者に労働の場を提供することが求められている。長寿小国アイスランドでは、公務員は七十歳定年、民間企業のほとんどに定年がない。そうした社会的基盤の上に、九十五歳でありながら現役で働く老人がいるという。日本もすぐにはできないかも知れないが、少しでも近づけたらよいと思う。

第三は老人と若い世代の交流の場を広げることであらう。近くの

町長の日記

三月四日 本町蜀鶏日本鶏保存会の第十四回定期総会が会長の武田実氏宅(木場)で開かれ出席しました。

とうまる鶏の鳴き声は長いこと有名ですが、近年都市化の進展に伴い、生活環境公害問題がとり沙汰されて撲滅寸前となり、県や市町村の対応が叫ばれて久しいのです。本町では保存会の活動が会長さん以下会員の手によって熱心に展開され、羽数の増加はもちろんのこと品種改良にも努力されて驚異的成果を上げています。この

淡妻次一郎

ことを聞きつけたNHKが取材に來られたそうで、そのビデオを拝見し実に感激しました。

今年四月二十九、三十日三重県で全国大会が行われ、大臣賞を目指して頑張っておられます。この意欲的取り組みに対し衷心より敬意と感謝申し上げます。三月九日 信濃川右岸、新潟市酒屋地内で、信濃川魚協が鮭の稚魚百万匹を放流しました。わたしもそれに参加させていただきました。組合員のご苦心とご努力でとる魚

小学校で、老人と小学生が一緒になつて縄跳びを楽しんだという話を聞いた。指導した老人たちは生き生きとしていたという。大変心温まる話である。昔は老人は尊敬され、若者は老人からさまざまなことを学んだという。そしてそこには、心の交流があつたと思う。どんな小さなことでもよい。触れ合いの場を広げたい。

小学生に縄跳びを教えるお年寄り。なぜなら、この比率は年々と高くなつていくことが確実であり、他の市町村より老人の数が少ないといつても千八百人の老人のかたが生きているからです。

了承いただきたいという組合長のごあいさつに始まり、十一件の議案はすべて原案可決で承認されました。農業情勢は一層深刻の度合いと厳しさを増していますが、このようなどきこそ組合員が一致協力し理解と信頼を深め協同の力を発揮しようとの力強い総会でした。なかでも昨年建設した予冷庫の活用が高く評価されうれしく思いました。この喜びを大切にして次の喜びをつくりたいものです。町づくり知恵出し合つて明日を築こうではありませんか。

業(掠奪)から育てる魚業へと転換しているのがわかりました。鮭の生態を調査研究し、知恵を出し合つて開発されたふ化場に育成されたおおよそ五・六センチの稚魚が放流され、銀鱗をひらめかしながら元気よくさよならを告げました。わたしはわが子を放立させた思いがしてなりません。互いに知恵出し合つて明日を築こうではありませんか。

三月十八日 本町農協本所で第五回農協総会が本間組合長のもとで行われました。例年役場隣の中央公民館で開催されるのですが、本年は先客のため大野教会に当たりましたが、これも先客止むを得ず

た。ただし、残念なことに戻つて来